

自分から、大きな声ではっきりと

小学校と中学校では、毎年「社会を明るくする運動」の作文を書いています。今年の作文でも、たくさんの子供たちが「あいさつ運動」について書いてくれました。紹介したいと思います。

あいさつは大切な言葉

明日香小五年

私は、あいさつをするのが苦手です、いつもあいさつをする人に小さい声でしかあいさつを言えませんでした。大きい声であいさつをしている子を見ると、私は少しはずかしくなりました。

私の学校は、毎週水曜日にあいさつ運動をしてくれています。私は、大きい声であいさつをしていくことができません、時々遠ざけて行く時もありました。私が放送で、いつもあいさつ運動であいさつをしている人に、少し大きな声で一度言ってみたら、心がすっきりしました。でも、小さい声でしか言えないときが続く日もありました。

ある日、私が学校の前の道路を歩いていると、教頭先生とボラン



ティアの人が立っていました。私が、先にあいさつしてみたら、教頭先生とボランティアの人もあいさつをしてくれました。

バス停にいつ

もいてくれるボランティアの人たちに、大きな声で、「おはようございます。」と言ってみたら、ボランティアの人たちも、「おはようございます。」と言ってくれました。

私は、はじめて分かったことがありました。あいさつを大きな声で言ってみると、心も体もすっきりするんだということです。もし、あいさつがなかったら、初めて会う人とも親しくなれず、一人になつてしまうかもしれません。

だから、あいさつがとても大切な言葉なんだと分かりました。私は、あいさつが世界中に広まればいいなあとも思います。あいさつが世界に広まれば、世界の人たちとも親しくなれます。(略)

これから、近所の人やボランティア、先生、友達、家族にあいさつをしたいです。(後略)

— 終わり —



あいさつ

聖徳中二年

社会を明るくする運動の作文を書くことになって、僕は何について書けばいいかとても悩みました。(略) 僕の祖父のことを書きます。

祖父は、僕が小学校低学年のころから、登校時あいさつ運動をしていて書いています。今も続けてくれています。僕が通るときに、祖父は大きな声で、「おはよう。いつてらっしゃい。」

と言ってくれていました。祖父がいるのは週に一度でしたが、そのときはとても元気になりました。別の日も、違う方が来てくださって、どなたも大きな声で、あいさつをしてくれました。

僕は母に、いつも言われることがあります。

「聞こえていないあいさつは、していないのと一緒。恥ずかしがらずに、大きな声で言いなさい。」

と、小さいころから言われ続けています。僕がそれをできているかどうかは分からないけれど、あいさつ運動を頑張ってくれている祖父や、その周りの方々に負けなように、大きな声で自分からあいさつをしていきたいと思っています。

います。

僕は、あいさつの大切さについて考えてみました。

一つ目は、自分からあいさつをすることです。(略) 朝、祖父らに元気な声をかけてもらっていたときに、僕は元気をもらっていました。自分も、周りの人に元気をあげられるようになりたいです。

二つ目は、心を開ききつかけになると思いました。大きな声であいさつをした後、誰とでも会話がしやすくなるのではないかと思います。

三つ目は、社会人になったときにとっても大事になると言うことです。これは、両親から言われていることです。(略)

あいさつは、自分から大きな声ではっきりと、相手に伝わるように元気よくしていこうと思います。(後略)

— 終わり —

